

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年5月31日

提出区分	実績	整理番号	15	課題区分	C	
横断的な課題	伝統を守り未来を見据えた持続可能な地域づくり					
地域重点政策	伝統を守り未来を見据えた持続可能な地域づくり					
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属	リニア活用・企画振興課
事業名	南信州民俗芸能を学ぶ赤門スクール特別編開催事業				電話	8-237-2316
					E-mail	minamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp
事業の概要	目的 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域に存在する民俗芸能について地域で学び、住民が主体的・自主的に取り組む地域づくりを支援 ・ユネスコ無形文化遺産登録となった風流踊など、伝統ある民俗芸能を学ぶことで保存・継承にむけた機運醸成 				
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年11月に全国の国指定重要無形民俗文化財41件が、「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。(本県では「跡部の踊念仏(佐久市)」、「和合の念仏踊り」、「新野の盆踊り」(阿南町)の計3件) ・南信州地域にとって民俗芸能はリニア時代の地域づくりに活かすべき貴重な資産であり、ユネスコ登録を契機に地域全体での保存・継承への機運が高まることが期待される。 ・南信州民俗芸能継承推進協議会により令和5年2月に南信州民俗芸能フェスティバルが行われ、阿南町民を中心に風流踊を中心とした民俗芸能の価値を学ぶ機会となった。 ・南信州地域には風流踊の他多くの民俗芸能が存在しており、阿南町以外でも民俗芸能の価値を地域内外の方に知り、学んでいただく機会が必要である。 ・当管内の民俗芸能においても、地域全体の少子高齢化に伴う後継者不足問題が指摘されている。民俗芸能は地域コミュニティにとってかかせない存在であり、その価値を地域全体で学ぶ必要がある。 ・南信州管内ではパートナー企業制度があり、企業の社会貢献活動を促進しているところ。民俗芸能の価値が高まれば企業の社会貢献活動の価値も高まり、相互にメリットが期待できる。 				
	内容 (変更後の内容)	<p>○赤門スクール特別編の開催 地域計画に基づき、地域の歴史・文化を学ぶ赤門スクール(南信教育事務所主催※特別編のみ共催)を通じた住民主体の地域づくりを支援。赤門スクールは通常、南信州地域内の講師を呼んで実施することが多いが、今回は特別編として当地域外でも活動を行っている小川教授に広域的な見地で民俗芸能に関する講演をしていただく。 通常の赤門スクールに参加されている方はもちろん、様々な媒体(チラシ、ラジオ、SNS他)を活用し、地域住民にも広く呼びかけ、参加者を募る。</p> <p>小川先生からは、民俗芸能に関する歴史や特徴の解説、民俗芸能は特定の集団が行うものではなく地域全体のものである(アソシエーションからコミュニティの文化となった)ことなどを講演いただく予定。受講者には民俗芸能に関する誇りや課題を地域全体のものであると再認識してもらう。受講後アンケートを行い、受講者の感想から講演の継続や新たな事業の検討を行うことで、地域づくりの支援につなげる。 また、当日の様子は、後日配信を行い、多くの方にご覧いただくよう取組む。 当日の参加者には、南信州民俗芸能ファンクラブへの登録を促し、当地域の民族芸能の保存・継承へつなげていく。</p> <p>日程: 令和6年1月21日(日)午前10時から12時 会場: 飯田合同庁舎3階講堂 講師: 小川直之氏(國學院大學名誉教授・伊那民俗研究所所長)</p> <p>運営に関する事(南信教育事務所)/費用・講師調整・チラシ作成に関する事(企画振興課)</p>				
事業期間	令和5年7月		～	令和6年3月		
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考		
	赤門スクール特別編の開催	事前打ち合わせ2時間 講演2時間	28,000	1時間あたり7,000円 南信州民俗芸能継承推進協議会での謝金を準用		
		講師旅費・日当・宿泊料	31,820	日当・宿泊料(7級相当)		
		チラシの印刷 当日資料印刷代	52,632	2,000部×23円=50,600(税込) 資料印刷代 2,032円		
オンライン配信、チラシの郵送		9,400	チラシ100通郵送(9,400円) ※オンライン配信は無償で実施			
合計		121,852				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	・南信州民俗芸能ファンクラブ登録者数の前年度比増加数(現在133人が登録)		13人増(約10%増)	36人増	達成	
	・赤門スクール特別編の受講者数(平常時30人程度)		40人以上	113名		

事業実績・成果	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南信州民俗芸能継承推進協議会にチラシ配布を協力いただき、地域の民俗芸能団体の参加があった。また、伊那民俗研究所所員や南信州民俗芸能パートナー企業、当地域に関心のある県外(北海道・東京都・静岡県 他)の方々の参加もあり、通常の赤門スクール参加者を上回る総勢113名(うちオンライン参加者33名)の参加があった。 ・当日の参加者(10名程度)からファンクラブ加入申込があり、民俗芸能保存継承の意義を学ぶと共に、地域住民の関心度をさらに高めることにつながった。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同パートナー企業の協力により、飯田FM放送(株)のラジオ放送による周知や、いいだケーブルテレビによる後日の番組配信が行われ、企業との協働が図られると共に、多くの住民へ民俗芸能の価値を発信する機会となった。 ・”地域の民俗芸能の多彩さについて、住民発信で仮説を考えてほしい”と講師から講演があり、講演後の受講者感想には地域を研究したい旨や独自の仮説の記載があり、住民主体の地域づくりにつながったといえる。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者感想からは「実際の民俗芸能に触れたい」という意見が多数寄せられた。今後は南信州民俗芸能継承推進協議会との協働によるイベントの開催や、各種民俗芸能行事に関する効果的な発信について検討を行う。